

【報告】

理工学部と理工同窓会 第5回 情報交換会



去る4月22日、タワー75の会議室にて、今後の理工学部と理工同窓会とが関係を深め、協力して理工学部ならびに同窓会組織の発展を図るための「情報交換会」が行われました。すでに5回目となる交換会で、毎回活発な意見交換が交わされますが、社会情勢を反映して、今回は卒業生の就職活動支援についての議論が集中的に行われました。

ご出席された方々は、理工学部からは安藤理工学部長や吉久協議員をはじめ、各学科長や横森就職委員長及び事務長です。理工同窓会からは、清水同窓会長のほか、各科同窓会長と役員が出席しました。

卒業生の就職活動に対する 協力と支援について

就職委員会から提案

【安藤学部長】同窓会の皆さまは後輩への想いが強く、自発的な動きから就職支援をしてくださることは大変有り難く、深く感謝しております。同窓会主催の就職説明会も、今後も続けて頂きたいと思っています。就職率などの傾向につきましては、各学科により相違はありますが、いずれも大変厳しい状況で、各学科とも例年に比べ内定者が少ない状況です。

【岩崎】経済情勢が厳しい時代でしたので、OB企業も採用枠が少なく、学生は苦勞したことと思います。同窓会としても積極的な支援をしたいのですが、説明会への参加者も減り、なかなか効果が得られません。その改善策として、就職委員会より提案を頂きました。

【横森就職委員長】近年では、学生の情報収集法が乏しく、きめ細かい情報提供が必要だと感じています。つきましては、理工同窓会の協力による理工学部学生の就職活動支援について、以下を改善・新規提案し、情報の有効活用を図ります。

(1) OB企業の学科(または研究室)へのルート活動については、通常の個別対応と同様の取り扱いとして、2つのルートを設けます。

●ルート1: OBまたは理工同窓会↓学科就職委員↓必要があればキャリアセンターに連絡(必要な場合は関連学科へ連絡し、複数学科にまたがる場合は担当学科を決める)

●ルート2: OBまたは理工同窓会↓研究室教員↓必要があれば学科就職委員↓必要があればキャリアセンターに連絡
従来に比べ、「キャリアセンターへの連絡」を追加することにより、より多くの学生に求人情報を発信していきます。

(2) 平成22年度用 理工学部同窓会支援企業紹介一覧表を追加・訂正して、更新します。
ルート: 理工同窓会からの提案↓就職委員会↓キャリアセンター↓就職委員会↓学生提示

(3) 新たな提案事項として、理工同窓会からの企業OBリストを作成。就職委員会が受領して、キャリアセンター経由の理工学部就職委員会(キャリアセンター保管)に提示し、各学科キャリアセンターで活用します。

(4) OB企業によるインターンシップの実施については、基本的には個別企業からの依頼が中心と思われるので、キャリアセンター(インターンシップ担当)↓理工学部就職委員会↓学科就職委員+教務委員の流れで実施します。学科によってはインターンシップを単位認定している学科もありますので、OB企業の積極的な支援を期待します。

上記の提案事項は、修正などをしながら毎年定款的に実施されるように理工学部就職委員会と理工同窓会で協力していきたいと思っています。

—— 昨今の就職支援事情

【清水会長】懸念されるのは、キャリアセンタ―に情報を提供した場合、情報を提示するだけになるのでは？という事です。情報提示だけでなく、原点に還り、各学科の先生が就活生とより深い接点を持って、就職指導にあたってほしいと思いますし、また同窓会とも連携を深め、より多くの学生を支援できたらと考えます。

【高橋学科長】確かに、理工学部は、伝統的に、OBは直接研究室や教員に情報を持ってきたり、個々の繋がりで就職支援をしてきたという流れがありました。ところが、学内では、そうした求人情報をより多くの学生と共有しようという考えがあり、キャリアセンターの積極的な活用が求められています。ただ、学生数に対し、キャリアセンターの職員数は圧倒的に不足していますから、力が及ばないこともあるかもしれません。

【梶田】その分、学科の先生方が同窓会との関係を深く保つ必要がありますね。

また、理工学部には優れた先生が揃っております。そのような先生方から学んだ学生を大学に残したい。理工学部OBの教職員育成と増員・採用については、どのようにお考えですか？

【安藤学部長】材料や交通では、教員の採用率は高いと思います。ちなみに材料では現在16名の教員のうち、7名が卒業生です。本学としても、卒業生、女性、外国人、を積極的に採用するように意識しています。しかし、教員になるためにはドクター取得が条件であり、その上、ある程度の教育年数も必要ですから、学科の特異性によって、採用が難しくなる学科もあります。さらに今は企業でも論文博士の取得支援をしてくれるところは少なくなっているのも実情で

す。しかし、学生の立場を考えると、OBであつてもなくても、名城大に愛着を持ち、懇切丁寧な指導が出来る人材であるかが大事なのではないかと考えています。

—— 学生の就職意識の低下

【岩崎】学生自体が就職をどのように考えているのかと、懸念することもあります。

【原田学科長】おっしゃる通り、少しのんびりしている学生は多いです。同じ会社の説明会に友達同士、集団で行つてみたり、社会情勢に疎く、数年前の情報そのままに行動してたり……。このような時代ですから、より真剣に考え、より迅速に動くことが大事なのですが……。ですから、早い時期から自分の進路について夢を持って考えられるような機会を設けたいです。

【梶田】約束を守らないなど、社会人として必要な最低限のモラルに欠けた学生も気になります。

【田中学科長】まだまだ学生気分で、社会人としてのイメージが確立されていないようです。単にSEになりたいと言つていても、そのためには、商談をまとめる能力など必要であるという意識は低く、社会人になつたら、どこに行つて何をするか具体的にイメージできていません。そのためにも、説明会などでは、OBから現場の声を聞かせてもらいたいです。

【清水会長】他大学では、卒業したOBへの就職支援も手厚く行つているところもあります。つまり、リストラや転職などのフォローを行つています。本校も、名城大OBなら、生涯就職支援してもらえる環境を整えたいですね。

【安藤学部長】わかりました。ご意見ありがとうございます。

【岩崎】本日、出席している同窓会役員は、安藤学部長をはじめ各学科の先生方とこのような交流を持たせてもらい、大変光栄で、さまざまな意見交換によつて、理解を深めることが出来ています。しかし、理工OBは現在5万6000人がおり、その方々と

も何らかの形で交流を進めたいと希望しています。それについての手段や方法がありましたら、次の機会にもご提案いただけたら幸いです。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。

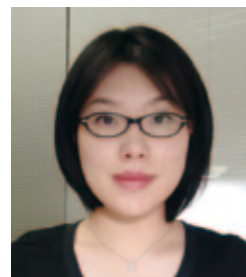


理工学部 材料機能工学科は 設立10周年



材料機能工学科第1期生(ソフトボール大会集合写真)

理工学部材料機能工学科助手 池邊 由美子



私は平成12年4月に名城大学理工学部材料機能工学科の第一期生として入学し、学部の4年間、修士課程の2年間、博士課程の3年間を名城大学で過ごしました。平成21年4月からは出身学科である理工学部材料機能工学科の教員となり、今年2年目を迎えましたので、学生時代を合わせますと名城大学生活11年になります。10年以上の時間を名城大学で過ごすことになるうとは入学当初思ってもいませんでしたが、今回、教員として母校の後輩指導に携わるチャンスを与えられたことに感謝すると共に気が引き締まる思いです。

私の所属する材料機能工学科は今年設立10周年を迎え、卒業生は500名ほどの理工学部では情報工学科、環境創造学科と並ぶ比較的若い学科です。冒頭でも記しましたように、私はその一期生として入学しました。一期生であるが故のフレッシュヤーや苦労もありましたが、貴重な体験も数多くすることができました。その一つが材料機能工学科同窓会の設立です。当然のことながら、当時、我々が卒業後お世話になる同窓会はなく、自らの手で同窓

会を立ち上げなくてはならない状況でした。平成16年の4月には無事、「材料会」を設立することができたのですが、その先駆となったのが在学4年生で組織されるZ会です。Z会の「Z」はZairyoの頭文字で、学内で材料機能工学科をアルファベット一文字で表す際にZが用いられていることから、この名前がつけました。Z会は、同窓会立ち上げの企画はもちろんのこと、学科内のレクリエーション、卒業パーティーなどの企画運営のために作られたものでした。私自身もこのZ会に参加し、杉下潤二教授の指導の下、会則の作成やシステム作りに携わりました。会則の作成と言っても初めてのことでしたので、伝統ある機械会の会則を参考にさせていただきました。そこに材料機能工学科のカラーを加えていく形での会則づくりであったと記憶しています。この会則は幾度か見直しが行われましたが、現在でも材料会の基盤となる会規として受け継がれています。材料会自体は二度の役員総入れ替えの後、現在は第五期卒業生の飯島祐樹会長の下、学科行事への支援をはじめとした活動が活発になされています。また、在学生組織であったZ会も活動が続けられており、一期生が苦労して作り上げた基盤が今に受け継がれていることをうれしく思う限りです。

さて、私の近況を少しご報告させていただきます。まず、教育が仕事の大半を占め、これに研究と雑務が加わった日々です。大学に限らず、いずれの企業でも忙しいことは当然のことなのでしょうが、卒業研究で研究の楽しさに目覚め

て以来、研究一色で学生時代を過ごし、外界を知らない私にとって、大学教員はなんと大変な仕事なのだろうと着任当時はよく悩んだものです。教育に対する責任は重く、一方で研究業績も問われます。しかし、学生時代の記憶をたどると確かに諸先生方はいずれも完璧にこなしていたのです。講義も学生指導も行き届いていましたし、研究活動も精力的に行われていました。加えて、様々な委員会や会議にも時間を割いておられました。私自身、教員2年目を迎えましたが、同じようにできているかと問われると全く自信がありません。ですが、日々経験を重ねながら、少しでも母校名城大学の発展に貢献できるような人材になるため努めていきたいと思っております。

最後になりましたが、卒業生の皆様には、母校名城大学、並びに、後輩を守り立てていただくべく、ご指導、ご支援をお願いする次第です。私も、その橋渡しとなるよう努力して参る所存であります。今後ともよろしくお願いたします。

【学歴】

平成16年3月 理工学部材料機能工学科卒業
平成18年3月 大学院理工学研究科材料機能工学科専攻修士課程修了
平成21年4月 大学院理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻博士課程修了

【職歴】

平成18年4月 COEプログラム“ナノファクトリー”研究奨励員(平成21年3月まで)
平成21年4月 理工学部材料機能工学科助手(現在に至る)

大学半世紀一言

理工学部電気工学科 37年卒 米澤 彰賢



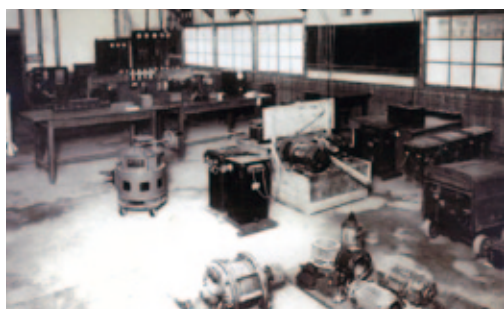
駒方校舎 講堂



駒方校舎 機械実習室



新富町 理工学部全景



新富町 理工学部電気実習

まだ第二次大戦の爪跡が名古屋市内に散在する昭和33年4月29日駒方本部の講堂(写真で1700名の入学生に對して大串総長がメッセージを述べたと当時の名城大学新聞は記載しています。それから半世紀余が過ぎ去ったこととなりますが、この講堂は昭和34年9月に火災焼失したためこの講堂で入学式または卒業式を経験した現役大学職員は皆無ではないかと思ひます。紛争で通常では考えられない遅い4月末の入学式当日は満員で立錐の余地もなかったと記憶しています。入学式が終了し、帰りがけに1階の破れた窓ガラスから屋内を覗い

たら油臭さと共に余り手入れが行き届いていないと思われるベルト式旋盤が目に入り、更に奥の方にはベルト式のロール盤らしき工作機械が並んでいたこと、その後新富町の理工学部の校舎で渡り廊下の片隅にうず高く積み上げられた素焼き色した電気コンロの残物などが鮮明に脳裏に焼きついていきます。また、この新聞には理工学部、農学部、薬学部の理系学部に対して二年までに修得出来る総単位数の75パーセント以上を修得していること、さらに各学科が定めている指定専門科目を全て習得していることが進級条件の一つでも不合格であれば進級不合格となる。ただし、救済措置として仮進級すること出来る旨の進級制度が実施されたとの記事が掲載されています。この制度

はほとんど変更されることなく天白に移設されるまで続き、その後諸般の事情に鑑み進級は62単位以上修得しないと進級が不合格になりました。これはおよそ60パーセントに相当しておりこのことが学生の勉学・学力に大きな影響を与えていることは否めないと思われま

す。入試ならびに教務関係に携わって印象深い事柄は昭和の末に18歳人口の減少から大学経営破綻が生じるという問題が巷に叫ばれ問題化してきて、その18歳人口減少の検証を行いました。当時危惧していた事象が全てではないにしても現在顕在化しているように思われます。それは学園紛争が解決し天白に集結しそれまでの遅れと地上最低の大学といわれた恥辱を祓うことに力をいれ、本質的なことをないがしろにしたのではないかと思ひます。数年前から日本技術者教育認定機構が機能し始め、その講習会に参加し非常に困惑しました。それは審査側からそれぞれの

大学には「建学の精神」があり、それに従った学習・教育目標と教育内容が公表され実施し、社会が要求している水準を満足しているかを否かを審査すると説明があったときです。大学紛争がありやむをえなかったにしろ、紛争終結してから30年に及ぶ間名城大学は社会にどのような卒業生を輩出するのかを明記せずに「建学の精神」という言葉に蓋をして「不偏中正」という四字をもって表現してきたことです。かつてある政党の党首が出身大学を選択した理由を尋ねられたとき、入学試験を受験するために訪れたときその正門の一隅にその大学の建学の精神が石に刻まれてあり、その精神に感銘を受け入学したと語ったことを耳にしたことがありますが、まさに大学は立脚する哲学があり、それが社会に認められそれに従った教育をしなければならぬと考えます。そのことは名城大学だけでなく、それに付随する組織にも当てはまることではないかと思ひます。たとえば校友会にしろ学部同窓会にしろ会則があり、目的は明記されており会則はその組織を運営するに必要事項ですが組織の存在哲学が明確でないと思ひます。名城大学の存在哲学(精神)を明確にし、それを組織を構成する人達(教職員・学生・卒業生)が共有することで強い有能な組織として存在できるのではないかと思ひます。中部地区私学の雄たうんことを望み機会あるごとに叫ばれてきましたが雄になりえないのは、哲学を共有することが出来なかったことではないかと思ひます。大学を去るにあたり日ごろ脳裏の片隅にあることを申し上げ更なる発展を祈念します。

理工同窓会 総会・記念講演・懇親会



理工同窓会 総会風景



記念講演会 — 講師 名城大学経済学部 佐土井 有里 教授



理工同窓会 懇親会



理工同窓会 懇親会

理工同窓会の総会・記念講演会・懇親会が、平成22年6月20日(日)に開催され、天候の悪い中多くの皆様に参加して頂き誠に有難うございました。皆様のお陰を持ちまして無事終了致しましたことに、役員一同心より感謝しております。

① 理工同窓会

10時30分～11時20分

② 記念講演会

11時30分～12時45分

講師：名城大学 経済学部
教授 佐土井 有里
『アジア経済——発展する国——』
しない国 その原動力は「人」——

③ 懇親会

13時～14時30分
タワー75 15F
レセプションホール

総会において、清水会長からは理工同窓会への思いと今までの活動報告についてのお話をして頂きました。その後、来賓者の紹介があり、下山学長からは名城大学の現状と今後について、厳しい状況となるため、同窓会との絆を深めたいというお話をして頂きました。安藤理工学部長からは理工学部の現状と今後について、現在の4号館が新設されるというお話をして頂きました。林校友会会長より理工同窓会は、卒業生の約3分の1を占めている名城大学を象徴する存在であるので、校友会の活動・

大学支援には是非協力をお願いしたとお話をして頂きました。

総会の最後に、新会長の岩崎様より新副会長の紹介と理工同窓会の活動において『絆を深めよう』を基本方針と行いたいというお話がありました。

記念講演会では、名城大学経済学部 教授佐土井有里先生より『アジア経済——発展する国——』という題目で、シンガポールとマレーシアの違いについての興味あるお話をして頂きました。当日発表された内容(パワーポイント)をホームページにて紹介しますので興味ある方は是非ご覧ください。

懇親会では、名城大学常勤理事の板橋先生からより詳しい大学の状況と特に理工学部は就職決定率が他の学部

比べて非常に高いこと理工同窓会へ大学支援のご協力についてのお話をして頂きました。名城大学理工学部後援会事務局の堀様にて後援会の活動を紹介します。乾杯を行って頂きました。大学関係、校友会関係、後援会関係並びに各学科同窓会の横への絆が深められる歓談となりました。参加された皆様は、大変有意義な1日過ごされたものと思います。

総会、記念講演会、懇親会の状況を写真にてホームページに掲載しますのでご覧ください。

総会資料・会則の変更等 詳しくお知らせになりたい方はホームページ等をご覧ください。

理工各科同窓会案内

電気会

会長 伊藤 栄
新春情報交換会開催
日時：平成23年1月22日（土）17：00～
場所：名古屋ガーデンパレス
会費：8000円受付にて拝受

機械会

会長 渡辺治比古
第10回新春交流会開催
日時：平成23年1月29日（土）18：30～
会場：名古屋ガーデンパレス
問い合わせメール：watanabeh@shinmei.co.jp

交通
機械会

会長 高垣満正
新春賀詞交換会開催
日時：平成23年2月初旬予定 場所：未定
ホームページ：http://www.geocities.jp/traffic_ob_meijo_u/

土木会

会長 河合 紀
年末情報交換会開催
日時：平成22年11月26日（金）18：00～
場所：名駅前 レセプションハウス

建築
同窓会

会長 小木曾森司
新春情報交換会開催
日時：平成23年1月21日（金）18：00～
場所：アイリス愛知

理工同窓会・各学科同窓会・技術士会のホームページが出来ました!

理工同窓会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/	機 械 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kikaikai/
〈各学科同窓会・技術士会〉		交通機械会	http://www.geocities.jp/traffic_ob_meijo_u/
数 学 会	http://math.meijo-u.ac.jp/sugakukai/	土 木 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/dobokukai/
情 報 会	http://www.meijo-johokai.org/	環 境 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kankyokai/kan_gyojiyote.html
電 気 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/denkikai	建築同窓会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/kentiku/
材 料 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/zairyokai/top.html	技 術 士 会	http://meijo-rikou-dousoukai.jp/gijutusikai/

交通機械会からのお知らせ

昨年交通機械会会長に就任しました昭和48年夜久ゼミを卒業の高垣です。

今まで一会員として、外から会をみていました私が、前会長の永津様から、引き継ぎ間もない中での状況でしたが、役員会で何度も検討を続け、先生方のご協力もいただき、「ゼミ対抗ソフトボール大会」への卒業生参加、「賀詞交歓会」に衆議院議員野田聖子様を招いての講演 等 例年行っている事業をより充実させたと思っています。

また新事業として「ゼミ長懇親会」を行いました。会員の皆様に満足頂けたかどうか、気がかりな面もございます。いたらぬ点多々あると存じます。

これからも会長として、会の活性化を具体化することまた、
会員皆様の同窓会に対する熱き思いを事業に織り込むよう
に努力してまいります。

22年度の活動方針は、

- 同窓生及び先生方と交流をより一層深めよう
- 在校生との交流会を積極的に行おう
- 大学の取り組み状況を同窓生に伝え、同窓会及び母校への関心を持ってもらおう
- 卒業名簿の整理、情報の共有化を目指す為にメール配信網の整備等

今後も事務局よりホームページや案内状をもって展開いたしますので、卒業生皆様のご協力をお願いします。

監査	監査	学内幹事	学内幹事	学内幹事	学内幹事	学内幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	常任幹事	副会長	副会長	副会長	副会長	副会長	会長	役員				
小池晋也	小林信之	鈴木秀和	池邊由美子	杉山秋博	谷田真	瀧佳弘	来海博央	永井功	下地康夫	石川豊	鈴木祥隆	高木理仁	志賀保	小川芳孝	伊藤充紀	阿部亮太	鳥居一仁	祖父江力三	岩室隆	開米和明	近藤好彦	片野泰行	前島利夫	渡辺颯造	飯島祐樹	中坪宏太	中山俊一	小木曾森司	庵原英雄	河合紀	伊藤栄	渡辺治比古	岩崎征一	氏名
材・H21	士・H10	情・H21	材・H13	士・S49	建・H7	交・S46	機・H7	環・H18	建・S47	建・S47	士・S46	士・S46	交・S46	交・S48	材・H21	材・H21	機・S60	機・S45	電・S45	電・S47	情・H20	数・S64	数・S42	環・H16	材・H20	情・H22	数・S32	建・S48	交・S47	士・S46	電・S50	機・S57	建・S41	学部・回生

(任期・平成22年4月～平成23年3月)

平成22年度
理工同窓会役員名簿